病院HP

病院だより10月号

CT検査とエコー検査について

放射線科　安達　一貴

今回は、ＣＴ検査とエコー（超音波）検査について、それぞれの特徴をお話しします。

ＣＴ検査とは

Ｘ線装置で身体の周りを１回転し、全体のデータを得ることで輪切りの画像を撮影する検査です。ＣＴ検査は、短時間で広範囲の撮影で得られたデータをもとに、輪切り以外の様々な方向から画像や３Ｄ画像を作成することが出来ます。Ｘ線を用いるため被ばくを伴いますが、検査により身体の状態を調べるメリットの方が大きいときにのみ行う検査です。

エコー検査とは

エコー検査は、Ｘ線ではなく超音波を利用した検査です。この検査では超音波を発生させる機器を体に当て、臓器の大きさ・性質・形状を観察します。また、画像をリアルタイムで観察することで心臓の動きや、血管内の血流などを評価することが出来ます。超音波は空気や硬いものがあるとそこで遮られてしまうため、肺や骨がある部分は画像を描出するのが難しくなります。

検査部位でのCT検査とエコー検査の比較

	ＣＴ検査	エコー検査
頭　部	◎	△
	出血等の描出をすることが出来る	頭蓋骨に超音波が遮られてしまうため内部を描出することが出来ない
胸　部	◎	△
	肺炎、気胸等の疾患を描出できる	空気で超音波が遮られてしまうため疾患を描出できない
心　臓	○	◎
	造影剤を使うことで、心臓の動きや血流をリアルタイムで確認できる	心臓の動きや血流をリアルタイムで確認できる
腹　部	○	○
	肝臓、胆のう、すい臓、腎臓などの臓器の評価に適している	腫瘍内部や結石サイズ等の性状の評価に優れている
骨	○	△
	骨折や変形等の描出が出来る	超音波が遮られてしまうため描出が困難





このようにCT検査とエコー検査ではそれぞれに長所と短所があり、目的や部位に応じて検査をします。士幌町国保病院でも、医師の判断により、必要に応じてこれらの検査を実施しています。身体の不調を感じるなど、気になることがある場合は外来医師へご相談ください。